

モーターヘッド

M
O
T
O
R
H
E
A
D

San-ei shobo
1050 JPY

WINTER 2015

14

Ken Block's



独占
取材

1965 MUSTANG
HOONICORN RTR



特集：箱根ゼンカイ。

plus

スマホ、iPadで見れるスペシャル動画付き。

Tokyo Underground

東京深夜の人間模様。

Euro Trends

最新ユーロメイク。

and so on...




デビュー間もない新型モデルに話題が集中しがちな昨今だが、ストリートで主役となるのは、やっぱり相応に時間が経ったモデルだと思う。カスタムのノウハウが確立されているからこそ、日常での扱いやすさを維持したまま、ともすれば最新モデル以上の存在感に仕立て上げるのだって、決して非現実的なことじゃない。

マイナーチェンジ前のカイエンSと、先代S63AMGを前にして、そんなことを考えていた。カイエンSはメーカー純正オプションたるスポーツデザインパッケージで純正っぽさを守りつつも、パワークラフトのハイブリッドエキゾーストシステムなどの飛び

道具も備える。一方、S63AMGはスポーツラインのセンターマフラーで図太い音色を手に入れつつ、エアサスコンピューターで車高をがっつり落としている。

両車とも、カスタムのキモとなるのは装着されるホイールだろう。国産鍛造ホイールの、もはや老舗に数えられるハイパーフォージドである。カイエンSにはボリューム感ある体躯に負けじと太い5本スポークを持つHF-C5.2が、C63AMGには力強さと繊細さが同居するHF-C10が装着されていた。日常ユースに支障をきたさない範囲で極限まで車高を落とし、フェンダーや路面とのクリアランスを確保するアプローチは、微細

なサイズオーダーを受け入れるハイパーフォージドならではの。この2台は、ともに22インチを装着していたが、ユーティリティとヴィジュアルを両立させる意味で絶好の落としどころなのだろう。

実際、気兼ねなく街中のどこへでも乗り付けることが可能で、写真のように多少の悪路へ踏み入れてもへっちゃら。たとえ泥で汚れたとしても、その使用感すらカッコイイと思えるし、強靱な表面処理はブラシでガンガシと洗える気軽さがある。デビューから時間の経ったモデルを自分色に染めつつ日常で使い倒したい人こそ、ハイパーフォージドはマストアイテムである。 



カイエンに装着されるのはHF-C5.2。ディスクをブラッシュドアナダイズドブラック、リムをマットブラックとして、奥に潜む918スパイダー色のキャリパーとの調和を図った。タイヤサイズはフロント295/30、リヤ335/25。S63AMGにはHF-C10が、3Dブラッシュドセンターフィニッシュにハイポリッシュリムという組み合わせ。タイヤサイズはフロント255/30、リヤ295/25。2台とも22インチサイズで、これならば悪路もへっちゃらだ。



HYPER FORGED HF-C5.2

size : F22×10.0J / R22×11.5J price : ask



Pari02
Street
Style

今どき 22インチ な気分。



EC.SPEC S63AMG×CAYENNE

Text : 中三川大地 Daichi Nakamigawa Photo : 河野マルオ Maruo Kono

問い合わせ / HYPER FORGED

☎072-256-6664 www.hyperforgedwheels.com

取材協力 / EC.SPEC

☎092-406-1414



HYPER FORGED HF-C10

size : F22×9.5J / R22×11.0J price : ask



2015 黒く乗れ

HRE S65

Text : 堀口 訓 Satoshi Horiguchi
Photo : 河野マルオ Maruo Kono

と にかくアウトローな雰囲気が欲しい。そんな熱烈なメルセデス・フリークの要望を受けて、福岡エリア随一のMBファクトリーであるECスペックが出した答えがこの黒々とした肢体だった。四肢に輝くクロームの輝きをことごとく塗り潰し、ブラバスのフルエアロ、それも本来は正真正銘のブラバスS63コンプリートカーにのみ与えられる、リヤカーボンディフューザーと

エキゾーストキットを恐らく日本で初めてブチ込んだ。そのうえで、足元にはHRE初となる待望のコンケーブデザインモデル「シリーズS1 S104」を装着した。

この圧倒的な迫力はどうだ、街に君臨するかのような威圧感はどうだ。そんな印象を醸す根源はやはりホイールこそ。ザラザラとした質感を誇るテクスチャードブラックのセンターディスク、グロスブラックの

リム、マットブラックのインナーリム、そしてカーボンビルドセンターキャップ。これから色調の異なるブラックの競演があればこそ、これほど妖艶なオーラを放つことができるのである。当たり前のブラックアウト術では、この色香は生まれてこない。

それにつけてもこのS104、驚くほどの高性能ぶり。航空宇宙グレード6061-T6鍛造アルミやARP社製高カステンピアスの採用、サイドバックとバックパッドのポケット加工によるパネ下重量と回転慣性の最小化など、現況下におけるホイール造りの最高峰最先端をいっている。2015年を黒く乗り倒すには地位も名誉も金も、要る。👊



HRE S104
size : F21x9J / R21x10.5J
price : ¥438,480



日本第一号車となるコンプリートカー専用のリヤカーボンディフューザーとエキゾーストシステムを含めたブラバスのフルエアロを装着しつつ、グリルを含めたクロームをすべて黒染め。足元は21インチのHRESS104で武装する。完成度がすこぶる高いアダルトチューニングとあって、狙うはギャングスタ仕立て。

欧州車ならSUVでも

ワイドボディ
W×Xさて答えは?

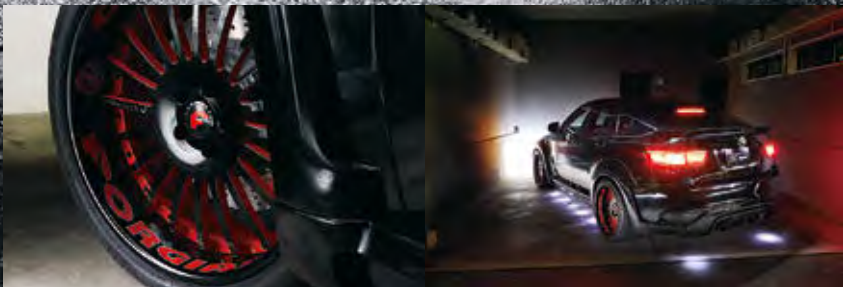
FORGIATO ×EC.SPEC X6

俗に車高の低さは知能の低さ、などと申しますけど、この一台を眺めてたら知能低くて結構などと叫びたくなります。素直に格好良いデス。ご登場願うは井口代表率いるECスペックがコンプリートしたX6。ハーマン製ワイドボディキットで恰幅を増し、SUVならではの旨味を十二分に引き出す寸法。で、足元はフルカスタムオプション仕様のフォージアート・アンダタ。これがスゴイ。ディスク天面は艶やかなグロスブラック、ディスク側面は真紅のフェラーリレッド仕

上げ。デカールやエンブレムもフル満載されていて、アバンギャルドな魅力を22インチの真円内からこれでもかとばかりに放っております。聞けば、このファットな四肢に見合うだけのボリューム感と存在感を合わせ持つホイールとは、を念頭にセレクトしたらしく、ならばデザイン性豊かでもはや芸術作品のひとつと言っても過言ではないフォージアート、そのなかでも比較的シンプルかつ大径感が強いアンダター択でしょ、とスムーズに選考決定したとか。赤と黒で奏でる情熱を受けて魂の深いところが目覚めたのか、プリプリのX6に天使の羽根が生えてきたようです。フォージアートがあれば、クロスオーバーだって跳べるかも!?^{pt}



Text : 堀口 訓 Satoshi Horiguchi
Photo : 河野マルオ Maruo Kono



ハーマンワイドボディキットが装着されたX6。SUVながらも疾走感をまとったビジュアルの獲得に成功。また、フルカスタムとなるアンダタもベースモデルと比べて驚くほどの変貌を遂げている。その印象、ひとこと妖艶。